

Hokkaido University Institute for the Advancement of Higher Education

# ニュースレター



北海道大学 高等教育推進機構

Newsletter No. 117

- ラーニングサポート室2019年度活動報告 (3ページ)
- 2019年度学生調査, 卒業生調査および  
大学院生調査を実施 (17ページ)
- 2020年度夏季休暇における  
「全学インターンシップ」の実施に向けて  
-今年度は新型コロナウイルスの影響を受け学生への説  
明や手続き, 日程の大幅な変更- (20ページ)
- (詳しい目次は裏表紙にあります)

## 巻頭言 FOREWORD

### 大学院教育改革ステーションの設置

高等教育推進機構長・理事・副学長 長谷川 晃

少子高齢化と人口減少, グローバルな競争の激化, そして第4次産業革命の技術革新などが進行する日本は, 今, 大きな社会変動の渦中にあります。これらの変動や社会構造の変化をどのようにして善き社会の実現と豊かな生活に結びつけてゆくか, それが現代日本の喫緊の課題になっています。これに加えて, 従前からの生命操作や環境問題, そして現今の新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大のように, 人間存在の根本条件や地球規模の大きなリスクをいかに統御できるかという課題も見逃せません。こうした変化とそれへの対処は, 高等教育全体が直面している大きな課題でもあります。

日本そして北海道の知識集約拠点を担うと共に世界の研究教育に伍さんとする本学は, 建学以来の4つの基本理念と長期目標, そして創基150年(2026年)に向けた「北大近未来戦略150」, さらに昨年度の経営改革促進事業採択を踏まえて, 世界最高水準の教育研究の展開に向けてさらなる研究, 教育, 社会貢献のための改革を進めており, 知のフロンティアを切り拓きイノベーションとその社会実

装を先導する研究大学としての開花を目指しています。特に教育に関しては、2013年以降進められて来たスーパーグローバル大学創成事業による北海道大学ユニバーサルキャンパスイニシアチブを通じた教育の国際化や個性ある特別教育プログラムの採択・展開など、ここ数年間に相当の改革が進んで来ています。

とりわけそこでは、大学院のレベルにおいて国内外から優秀な学生を呼び込む高度な教育の拡充が目覚ましく、One-Health卓越大学院プログラム、データ関連人材育成プログラム、次世代アントレプレナー育成プログラム、新渡戸カレッジ、あるいは北海道サマーインスティテュートや世界展開力事業、そして大学院生のための人材マッチング事業など、全学的にも各学院等でも多様性に溢れた教育プログラムの提供が進んでいます。しかし、その一方では、文理横断・異分野融合型教育プログラムの全学的展開とその整序、専門教育における外国語力強化、さらには各教育プログラムの「自走化」や全学的見地からの支援と教育資源全体の最適化などが大きな課題となって来ています。本年3月1日に高等教育推進機構に設置された大学院教育改革ステーションは、これらの課題に関し全体的な現況把握や検討、そして必要な方途の策定を進めて、大学院教育をより効果的なものとするための新しい機動的な組織です。

大学院教育改革ステーションは、柔軟な活動を可能にするコアメンバー方式をとり、また課題ごとにユニットを形成して各部局やプログラムとの対話に

よる連携の下、各教育プログラムの個性と多様性を尊重しつつ、それらが相互に協働できる体制を構築してゆきます。そしてその際には、本学におけるフロンティア研究やフィールド研究・基礎研究の蓄積を活用し、この多様性を活かして未来社会をデザインする次代の人材を持続的に養成していくため、国内外の調査や教学IRのエビデンスデータを活用しつつ、教育のグッドプラクティスや企業連携を含めた自走化の仕組みを全学へ波及させると共に、授業科目の共通化などによる教育資源の効果的配分を企図します。また、これらに加えて、学生の学修過程を可視化し教育の質を保証するために、修学ポートフォリオの導入や、あらゆる場所から講義を受配信できるクラウド型教育システムの整備などを進めると同時に、大学院生に対する経済的支援策も検討して、本学の大学院教育のポテンシャルを最大限に発揮するための策を開拓してゆくことにしています。

さらに、大学院教育改革ステーションは、大学院教育の改善を図ることを目的とする一方で、「大学院への入口」を整えるという観点からは、学部教育と大学院教育の連結に係る検討も念頭に置いています。そこから、将来的には、ステーションで推進する大学院改革を通じて学部教育改革や高大接続改革にも効果が及び、本学全体の一貫通貫的な教育改革が進むことも期待されています。

このようにして、大学院教育改革ステーションは、全学的な理解と協力を得ながら、本学の教育の未来を構想し実現するためのプースターとして機能してゆくことになるでしょう。



# 高等教育推進機構 Institute for the Advancement of Higher Education

## ラーニングサポート室2019年度活動報告

高等教育研修センターラーニングサポート部門（通称ラーニングサポート室、LSO）では、大学初年次学生の進路選択支援および学習支援に加え、総合入試制度に係わる調査、分析、検証作業を実施しています。進路選択支援では総合入試入学者の学部学科選択に関する相談や情報提供、学習支援では大学で学んでいく上で必要なスタディスキルに関する各種セミナーの開催や学習教材の開発等を行っています。その他、留学生チューターを囲んだ英語コミュニケーションや、2018年度よりも拡充して高校物理未履修者向けの高校物理補講を開催しています。以下に、2019年度の各学修支援活動（表1 2019年度LSO学修支援の取り組み状況）ならびに他組織等との連携事業活動について報告します。

表1 2019年度LSO学修支援の取り組み状況

支援内容	延べ利用者数 (カッコ内は2018年度実績)
進路選択・履修相談	984人*(532人)
進路相談会 (学部時間割ポスター展示)	631人(616人)
学習サポート (個別学習相談)	2092人(2905人)
スタディ・スキルセミナー	400人(630人)
英語コミュニケーション	238人
物理のコツ (全28回)	累計7340部配布(7394部)
高校物理補講 (全2回)	443人(62人)
統計学のススメ (全5回)	累計2239部配布(2020部)

\*2020年2月28日時点

### ○進路選択支援

2018年度と比較して人的体制が整ったこともあり、学生からの相談が最も集中する4月から十分な対応が可能になりました。そのため、2019年度の進路履修相談の延べ利用件数は大幅に増加し、2020年2月28日現在で、相談件数は984件、相談の総時間は約330時間となりました。これは、昨年度と比べおよそ2倍（相談件数：535件、相談の総時間：165

時間）となります。2020年度も1人でも多くの学生を支援できるよう全力で取り組みます。

毎年9月と2月に開催される学部・学科等紹介の一環として当室主催のアカデミック・アドバイザーによる移行先個別相談会（写真1 移行先個別相談会の様子）が盛況でした。学生から「研究職とはどのようなものか」、「化学系の進路について知りたい」、「大学院修士課程で海外留学を希望しているが、その可能性について教えてほしい」といった幅広い相談が多く寄せられました。その後のアンケート調査で学生から「ラーニングサポート室の個別相談が非常に役立った」とのご意見をいただきました。経験豊富な先生方から実際の助言や詳細な情報を提供することができ、アカデミック・アドバイザー制度が効果的に機能しました。

さらに、各学部の先生方や関係者の方々と協力しながら、学部学科選択に役立つアカデミック・マップを改訂しました。この資料は新入生オリエンテーションで全新生に配付するほか、2019年度からは進路相談会で来場者全員に配付し、本学への入学を検討する学生への情報提供を促進しました。また、経済学部の先生方の協力を得て資料「知っておきたい日本経済と社会人基礎力」を改訂し、新入生オリエンテーションにて全新生に配付しました。

写真1 移行先個別相談会の様子（2020年2月）

## ○学習支援

2017年度から2018年度にかけて、学習サポート(個別学習相談)の利用者数は大幅に増加しましたが、2019年度の延べ利用者数は2092人となり、ほぼ例年通りの利用者数となりました。月別の利用状況を見ますと、1学期が開始する4月および期末試験前である7月と1月の利用件数が極めて多いことが分かりました。

また、各学期のはじめに附属図書館と共同で開催するスタディ・スキルセミナー(写真2 スタディ・スキルセミナーの様子)のうち、特に「論説型レポート」と「実験レポート」に関する回で多くの学生が参加しました。今後も新たなテーマの追加や既存の内容を見直し、セミナー全体の改善を図っていきます。



写真2 スタディ・スキルセミナーの様子(2019年4月)

当室では、学習サポートの一環として物理学や統計学などの資料配布型学習支援を進めています。2019年度は物理学の学習資料である「物理のコツ」全28回、および統計学の学習資料である「統計学のススメ」全5回を発行しました。理学部数学科で作成された「核心解説：線形代数学I」全5回とともに、高等教育推進機構E211前および北図書館のパンフレットスタンドを通じて配布しました。

2018年度から附属図書館のご協力の下当室で開催している高校物理未履修者向けの物理学補講を、2019年度も6月から7月と10月から11月の計2回実施しました(写真3 高校物理補講の様子)。補講内容は文部科学省認定教科書の難易度を軸に、全学教育科目「物理学I・II」の学習に必要な基礎を復

習しました。

2019年度は「英語コミュニケーション」を再開しました。このイベントは本学学部生・大学院生を対象に、毎回少人数ゼミ形式で英語が堪能な留学生チューターを囲み気楽に会話を楽しみながら、英語を使ってコミュニケーションを取る力を伸ばすことができる場になっています。1学期は計12回、2学期は計14回実施し、盛況でした(写真4 英語コミュニケーションの様子)。



写真3 高校物理補講の様子(2019年10月)

写真4 英語コミュニケーションの様子(2019年11月)

## ○データ分析

データ分析では例年通りアドミッションセンターが実施する学生アンケートの調査分析を行い、アドミッションセンター企画運営会議調査・分析ワーキンググループ、総合教育移行専門委員会にて報告しました。また、アンケート集計結果を学生にも知らせるため、各年次アンケートについて「総合入試入学者」「学部別入試入学者」「全体」の集計結果を高等教育推進機構ウェブサイトにて学内限定で公開し

ました。

これに加え、今年度はアドミッションセンター企画運営会議調査・分析ワーキンググループの下、アンケート調査結果をもとにいくつかの提言を「エグゼクティブ・サマリー」としてとりまとめました。この資料は、アンケートで集められた学生の声を学内の様々な改革に向けた議論に活用してもらう機会を提供することを目的としています。

### ○他組織等への協力

- ・オープンキャンパスおよび東京と大阪で開催された進学相談会に参加し、総合入試制度の特徴や学部・学科等選択に関する個別相談を実施しました。
- ・理学院宇宙物理学専攻の研究室（担当教員：倉本圭教授、石渡正樹教授）が推進する遠隔授業プロジェクトで招待授業を担当し、「見えない光で迫る惑星形成」のタイトルで講義を行いました。
- ・附属図書館と連携し、北図書館2階新着図書コーナーの隣にて、数学・物理学・化学・統計学の学習に役立つ書籍の展示を行いました。LS部門では図書の選定と推薦文の執筆を担当しました。
- ・東北大学との共同で2大学合同学修支援研修会を

開催し、学修支援を担う両大学の組織の交流と情報交換および研修を通してこれまでの活動を客観的に振り返り、学修支援者としての能力向上を図りました(写真5 学修支援合同研修会の様子)。

LS部門では、日々の学生対応やアンケートなどの各種データをもとに、本学における教育の質保証支援に資するべく、一層の活動の拡充を図っていきます。

(秋山 永治/立花 優)



写真5 学修支援合同研修会の様子(2020年2月)

## 「日本語教育推進法」の成立と北海道大学日本語教育のあり方

### 1. 「日本語教育の推進に関する法律」の成立

2019年6月21日に参議院本会議で、「日本語教育の推進に関する法律」(以下、日本語教育推進法)が可決・成立しました。日本語教育推進法の目的は、外国人に対する日本語教育を推進することで、多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現に資するとともに、諸外国との交流の促進並びに友好関係の維持発展に寄与することです。この法律の成立によって、共生の場作りを支える日本語教育の基本理念が作られたこと、そして、はじめて日本語教育に対する国と自治体の責任が明確に示されたことには大きな意義があると考えています。

この法律には、日本語教育の推進の基本的な方向に関する事項として、以下の7つの基本理念とともに、国・地方公共団体・事業主などの責務、そして

基本方針等、基本施策等が定められています。

- ① 日本語教育を受ける機会の最大限の確保
- ② 日本語教育の水準の維持向上
- ③ 関連施策等との有機的な連携
- ④ 日本語教育が地域の活力の向上に寄与するものであるとの認識
- ⑤ 諸外国との交流等を促進
- ⑥ 日本語を学習する意義についての外国人等の理解と関心
- ⑦ 幼児期及び学齢期にある外国人等の家庭における教育等において使用される言語の重要性(文化庁HP「日本語教育の推進に関する法律(概要)」より抜粋)

大学等における日本語教育に関しては、日本語教育推進法の「基本的施策」に以下のような内容が規

定されています (下線は筆者による (以下同様))。

第一節(国内における日本語教育の機会の拡充)  
第十三条(外国人留学生等に対する日本語教育)

国は、大学及び大学院に在学する外国人留学生等であって日本語を理解し、使用する能力を必要とする職業に就くこと、我が国において教育研究を行うこと等を希望するものに対して就業、教育研究等に必要な日本語を習得させるための日本語教育の充実を図るために必要な施策を講ずるものとする。

(文化庁HP「日本語教育の推進に関する法律(条文)」より抜粋)

また、上記の条項に関連して、2020年2月17日に行われた「第3回日本語教育推進関係者会議」では、以下のような【具体的な施策例】が示されました。

- ・大学が企業等と連携し、留学生が我が国での就職に必要なスキルである「ビジネス日本語」等を在学中から身に付ける教育プログラムを文部科学省が認定し、留学生の国内企業等への就職につなげる仕組みを全国展開する。
- ・企業から採用内定を得た外国人留学生等に対して、職場において円滑に定着するために必要なコミュニケーション能力の向上や日本の雇用慣行、労働関係法令、企業文化等コミュニケーションを行う上で前提となる知識の習得を目的とした研修を実施する。
- ・留学生を含む外国人等の日本語教育環境を強化するため、都道府県及び指定都市が行う地域日本語教育の総合的な体制づくりを推進する。また、留学生を含む外国人等に対する地域における日本語の学習機会を確保する取組及び先進的取組を支援する。

(文化庁HP「日本語教育の推進に関する基本方針(素案)」より抜粋)

今後も日本で生活する外国人が増加することによって、国内での日本語教育に対するニーズはますます高まっていくことが予測されます。そんな中、前述の内容を含む日本語教育推進法の成立は、日本語教育に関する取り組みを局所から全体へ広げる根拠となると考えます。大学等の高等教育機関においても、これまで一部の学内組織が個別に行ってきた

外国人留学生に対する日本語教育に係わる取り組みを、大学全体はもちろん関係省庁または地域公共機関とも連携しつつ、より効率的に推進していく必要があります。それとともに、大学における日本語教育機関は、今後の大学に求められる役割、位置づけ、遂行すべきことなどについて常に検討を重ね、必要な措置を大学全体に向けて積極的に提案し、学内外に継続的に発信していくことを責務として担うこととなります。

現在、日本語教育推進法27条にもとづいて、関係省庁の局長クラスで構成する「日本語教育推進会議」が設置され、この推進会議が専門家の意見を聞くために設けられた「日本語教育推進関係者会議」を中心に、日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針についての議論が行われています。このような行政と教育機関との連携をもとに、今後、大学等に在籍する外国人留学生の様々なニーズに応じた日本語教育の提供の機会の拡大がいつそう期待されると思われます。

## 2. 北海道大学における日本語教育の現状と方針

### 2. 1 北大の外国人留学生数と日本語コースの受講者数

現在、北海道大学は「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」に向けて「近未来戦略150」という改革戦略を打ち出しています。その実行プランのひとつである「Hokkaidoユニバーサルキャンパスイニシアチブ(HUCI)」構想では、多文化キャンパスの実現を目標に外国人留学生の受け入れに積極的に取り組んでいます。実際に、ここ20年間で北海道大学の外国人学生数は飛躍的に伸びており、2019年度の外国人学生数は2,268名で、在籍者数全体の約13%を占めるまでになりました。

表1 北海道大学の外国人学生数

(各年5月1日基準)

年 度	2000年	2010年	2019年
国・地域	71カ国・地域	83カ国・地域	103カ国・地域
外国人学生総数	605	1,662	2,268

出典：「北海道大学の概要」

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/information/brief/>

大学の国際化に伴い、日本語学習の機会を必要と

する者も増えています。現在、北海道大学に在学する外国人学生および教員、研究員に対する日本語教育は、高等教育推進機構国際教育研究部の日本語教育ユニットが中心となって担っています。国際教育研究部は、1991年に教育研究組織として設置された「留学生センター」から始まり、その後、2010年に学内の国際的な活動を支える運営組織として新設された「国際本部」に属していましたが、2018年8月からは現在の高等教育推進機構の一部となりました。

組織と運営体制に変化はあっても、国際教育研究部は旧留学生センター時代から常に、北大における日本語教育を統括する組織として、留学生向けの日本語カリキュラムと留学生受入プログラムにかかわる教育、研究に携わってきました。

1991年の旧留学生センター設置時には、日本語コースの1学期の延べ受講者数は140名程度でしたが、2018年の延べ受講者数は1,870名で、約13倍までに増えています。大学全体の外国人学生の増加率に照らしてみても、北大に在学する外国人留学生の日本語学習へのニーズがますます高まっていることがよくわかります。

表2 北海道大学日本語コースの受講者数

年度/学期	2011/秋	2014/秋	2018/秋
登録者数	541	637	607
延べ受講者数	1628	1889	1870

また、日本語を学習する外国人留学生が増えているだけでなく、グローバル人材育成をめざす北海道大学の国際化の推進とともに、留学生への日本語教育の体制もより複雑になってきました。北大日本語教育の中核と言える「一般日本語コース」の場合、正規留学生の現代日本学プログラムや、非正規留学生の日本語・日本文化研修コース、北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP) など、それぞれ異なるカリキュラムポリシーを持つ複数の留学生プログラムが乗り入れる形で開講されています。また、2020年度から学部留学生とインテグレイテッドサイエンスプログラム (ISP) のカリキュラムも「一般日本語コース」と合同開講することになり、その規模はさらに拡大しています。このほかにも、国費留学生のための日本語集中コースや、学部入学前の日

本語予備教育など、個別に運用される教育プログラムもあり、北大における日本語教育組織の運営体制は非常に複雑化しています。これらの日本語コースについては、国際教育研究部のウェブサイトからも詳細が確認できますので参考にしてください。

北海道大学の日本語コースの中でもっとも規模が大きい「一般日本語コース」では、初級から上級まで8レベルの年間125科目の授業が、専任教員と約25名の非常勤講師とのチームティーチングで進められています。

表3 「一般日本語コース」の開講レベルと科目  
(2020年度第1学期)

レベル	科目名		
初級	文法	口頭表現	漢字・語彙
	実用日本語		
中級	やりとり(基礎)	表現(基礎)	理解(基礎)
	やりとり(運用)	表現(運用)	理解(運用)
上級	やりとり	表現	理解
	日本語演習	ビジネス日本語	

(「北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部『日本語授業概要』2020年度第1学期」より抜粋)

この「一般日本語コース」のカリキュラムは、既存の教材や手法による文法積み重ね式の日本語カリキュラムとは差別化される『北海道大学日本語スタンダードズ』という独自のガイドラインによって運用されています。国際教育研究部では、このガイドラインにもとづいて、日本語コースの受講生が属するそれぞれのプログラムの到達目標に齟齬がないように配慮しつつ、担当教員同士のタテ(レベル別)とヨコ(科目別)の連携を計りながら各授業の内容、教材、方法の調整を行っています。

## 2.2 北海道大学の日本語教育の方針

周知の通り、北海道大学では、スーパーグローバル大学採択を機に、グローバル人材育成プログラムの「新渡戸カレッジ」、英語で入学ができる学部留学生プログラムの「現代日本学プログラム」と「インテグレイテッドサイエンスプログラム (ISP)」を段階的に創設し、大学の国際通用性の向上と国際競争力の強化に力を入れてきました。

北海道大学の日本語教育の軸を担っている高等教育推進機構国際教育研究部では、このような学内

のニーズと、21世紀のグローバル社会における言語教育への要求に応えるべく、2013年度には留学生と日本人学生がともに日本語で学ぶ問題解決型・プロジェクト型授業の「多文化交流科目」を創設し、さらに2015年度には「一般日本語コース」カリキュラムの全面的な改編を行いました。これによって、従来の知識注入型の言語教育から脱却し、学生同士の協働活動を支える「ことば」と「コミュニケーション」に重点を置いた問題解決能力重視の言語教育へと見直しが行われました。

これらの新しいカリキュラム構築の土台となった枠組みが、『北海道大学日本語スタンダード』です。

『北海道大学日本語スタンダード』は、留学生が日本人学生とともに課題を認識し、考え、解決に向けて実行していくのに必要な日本語能力とは何か、そのために日本語の授業で具体的にどんなことをすべきかを「レベル別」および「モード別」に記述したものです。国際教育研究部ウェブサイトにPDF版が公開されており、どなたでも閲覧・ダウンロードすることが可能です。

本スタンダードの特徴としては、いわゆる一般的なコミュニケーションではなく、留学生と日本人学生が一緒に学ぶ場で必要となる課題遂行能力の育成に貢献するコミュニケーションを意識し、そのために従来の知識理解としての「わかる」や、実際に運用する技能としての「できる」だけではなく、それらを使って他者と協働するために社会的な関係性を構築する「つながる」力を重視しているという点が挙げられます。現在、「一般日本語コース」ではこのスタンダードを使って実際に授業を展開しています。『北海道大学日本語スタンダード』開発の経緯や背景、そして本スタンダードにもとづいて行われる実際の教育実践については、北海道大学国際連携機構国際教育研究センター（2016, 2019）に詳しく報告されているので参考にしてください。

前述のとおり、国際教育研究部では、毎学期120コマを超える日本語科目が開講されており、常に600人以上の受講生、約30名の日本語教員を有しています。学生の身分やプログラムごとに求められる日本語能力もさまざまであり、授業担当者のほとんどが非常勤講師という現状があります。したがって、『北海道大学日本語スタンダード』というガイドラインを通して、日本語教育機関としての方針と目的

を可視化し、常に組織・教員・学生間で共有することは、コース運営上重要な手続きであり、北大全体の日本語教育の質の保障に資する必要不可欠なものであると考えます。

### 3. 「日本語教育推進法」の推進に向けての北大日本語教育の課題と展望

前述した「日本語教育推進法」の成立に際して、道内でもっとも多く外国人学生を抱える国立大学である北海道大学の日本語教育機関に、これまで以上に大きい役割が課されるようになることは想像に難くありません。

中でも、もっとも重点的に果たしていくべき役割だと考えられるのが、「連繋」です。前掲した「日本語教育の推進に関する基本方針（素案）」にも、企業等との連繋による日本語教育プログラムの充実と、地域との連繋による日本語教育環境の強化について具体的に明文化されています。これからの大学等の高等教育機関における日本語教育には、学習機会の拡充と教育の質の向上だけでなく、企業や地域などとの有機的な連繋が強くと求められるようになってきたといえます。

これまで国際教育研究部では本機関主催の研修事業に力を注いできており、毎年数回、日本語・日本語教育研修会、多文化交流科目シンポジウムといったアカデミック・イベントを開催してきました。教育実践の改善・向上・情報の共有化を目指し、持続的に学内外の関係者とのつながりの強化に努め、日本語教育と多文化教育の北海道におけるハブとしての役割を果たしています。

しかし、これまでの事業が教育研究に携わる関係者間での交流、情報共有に重点を置いてきたのに対し、これからは教育研究に係わる人のみならず、急速に多文化・多言語化していく日本社会の構成員ひとりひとりを対象とした取り組みが求められると考えます。そのような働きかけこそが、「日本語教育推進法」の第一条に規定された「多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現」という目的に寄与するものであり、新しい法律のもとで国立大学が果たすべき日本語教育の社会的責務であるといえるでしょう。国際教育研究部では、2020年度北海道大学公開講座にて「外国人に日本語を教える」というテーマで一般市民向けの公開講座の実施を計画するな



ど、すでに具体的な取り組みを進めています。

また、「日本語教育推進法」の基本的施策には、「諸外国との交流の促進並びに友好関係の維持発展」という目的のもとで、第二節「海外における日本語教育の機会の拡充」(第十八条・第十九条)という規定が定められています。北海道大学の日本語教育においても、今後は日本国内のみならず、北大の短期留学プログラムに学生を送り出している海外協定校の日本語教育関係者との連携をさらに強めていく必要があると考えています。共通の教材開発やICTを活用した双方向的な教育実践などを通して、外国人留学生の母国における日本語教育と、北大における日本語教育のアーティキュレーション(接続性)をより積極的に図っていくことで、本法律の目的に沿った国立大学としての貢献が可能になると考えます。

最後に、「日本語教育推進法」に示された基本的な施策のいくつかの規定に関連して、今後、北大の日本語教育が急務として取り組んでいくべき課題についてももう少し具体的に述べたいと思います。以下の枠内は、すべて文化庁HPの「日本語教育の推進に関する法律(条文)」より抜粋したものです。

(第二十二條) 教育課程の編成に係る指針の策定等

国は、日本語教育を受ける者の日本語能力に応じた効果的かつ適切な教育が行われるよう、教育課程の編成に係る指針の策定、指導方法及び教材の開発及び普及並びにその支援その他の必要な施策を講ずるものとすること。

前述のとおり、北大の日本語教育は、いくつかのプログラムとコースが1つの日本語コースの中に入り入れる形で日本語教育が行われているため、北大独自のカリキュラムポリシーを明確に示しつつも、それぞれのプログラム、コースのニーズに柔軟に対応していくことが重要です。よって、常に現在のカリキュラムを見直し、さらに多様な科目を展開していくことが必要になると考えます。

(第二十四條) 日本語教育に関する調査研究等  
国は、日本語教育の推進に関する施策を適正に策定し、及び実施するため、日本語教育の実態(海外におけるものを含む。)、効果的な日本

語教育の方法、試験その他の日本語能力の適切な評価方法等について、調査研究、情報の収集及び提供その他の必要な施策を講ずるものとする

前述のとおり、北大の日本語教育では、2015年から『北海道大学日本語スタンダード』という独自のガイドラインにもとづいたカリキュラムを構築・運用しています。しかし、このカリキュラムへのアクセスはまだ十分ではありません。今後は、本学のカリキュラムの軸となっている『北海道大学日本語スタンダード』に対する客観的な評価方法を導入し、より具体的に可視化して公開していく義務があると考えます。

(第二十五條) 日本語教育に関する情報の提供等  
国は、外国人等が日本語教育に関して必要な情報を得られるよう、外国人等のために日本語教育に関する情報を集約し、当該集約した情報についてインターネットを通じて閲覧することを可能とするための措置、相談体制の整備に関する助言その他の必要な施策を講ずるものとすること。

北大全体の留学生数の増加と、研究と日本語学習の両立が難しい大学院生等に対応すべく、すでに存在する多様なeラーニングシステムの紹介サイトの構築を含めて、本機関独自の日本語学習コンテンツの開発にも積極的に取り組む必要があります。また、近年、合理的配慮が必要な外国人学生が増え続けていることから、FDやマニュアル作成を通じた日本語教育関係者への支援の重要性も高まっています。

以上、昨年新たに可決・成立された「日本語教育推進法」の各規定に照らし合わせて、北大の日本語教育が抱える課題と果たすべき責務について述べました。今後は、日本語教育機関のみならず、北海道大学の全構成員がこの新しい法律の目的と意義を深く理解し、責任ある体制で日本語教育を実施していくことが、本学の「近未来戦略150」構想による急速な教育の国際化を円滑に実現していく上で非常に重要であると考えます。

(鄭 惠先)

# 全学教育 GENERAL EDUCATION & 総合教育 FIRST YEAR EDUCATION

## 全学教育委員会報告

### 第4回全学教育委員会

(令和元年11月25日開催)

議題1. 令和2年度専門横断科目の開講計画について

専門横断科目には、Hokkaidoサマー・インスティテュート(HSI)科目、実践英語に関する科目、海外留学に関する科目の3つのカテゴリーがあり、これらの科目の開講計画を承認しました。

議題2. 令和2年度Hokkaidoサマー・インスティテュートにかかる専門横断科目「科目等履修生」募集要項(案)について

HSI科目について、科目等履修生を受け入れることが承認されており、その募集要項を定めました。

議題3. 「退職教員(本学定年年令を超える者)の非常勤講師の採用について」に係る対象科目の追加について

これまで、特例措置としてほとんどの理系基礎科目について認められていましたが、今回、理系基礎科目の地球惑星科学を追加することを承認しました。

議題4. 令和2年度全学教育科目の開講計画について

各部局から提供された授業科目及び授業担当教員をもとに開講計画一覧を作成し、これが承認されました。

議題5. 令和2年度全学教育科目に係るT・F及びT・Aについて

T・Fについて、各科目からの希望を一覧にまとめたものを提出し、予算の配分を待って決定することとしました。T・Aについては、各科目からの希望をもとに原案が作成され承認されました。

議題6. 令和2年度入学者にかかる英語優秀認定制度の変更について

英検、TOEFL、TOEIC、IELTSの4種についてそれぞれ基準点を設けていましたが、これをTOEFL/ITPのみとして、基準点も引き上げることとしました。

議題7. 令和3年度の全学教育科目の開講計画策定

に向けて

これまでの方針を踏襲し、平成30年度ガイドライン比7.5%削減などを継続する案を決定しました。

議題8. 令和2年度全学教育部の行事予定(案)について

平成31年度からの入学式早期化にともない、新入生オリエンテーションなども早くなっています。また、東京オリンピックのマラソン競技札幌開催にともないオープンキャンパスは9月に行われる予定となっています。

議題9. 全学教育科目に係る授業アンケート結果を受けての報告書について

平成30年度の全学教育科目に係る報告書を承認しました。なお、本報告書とは別に総合IR室が授業アンケート結果を集計・分析して作成する授業アンケート報告書があります。両者の名称がまぎらわしいため、今後、「学生による授業アンケート報告書(授業担当教員コメント編)」「学生による授業アンケート報告書(集計結果分析編)」とします。

議題10. 履修相談会MANAVI実施(案)について

平成19年度から学生による履修相談会MANAVIを行っており、新入生には好評です。令和元年度の実施報告をとりまとめるとともに、令和2年度の実施予定を決定しました。

### 第5回全学教育委員会

(令和2年2月19日開催)

議題1. 令和2年度全学教育科目に係るT・F、T・Aの採用について

T・Fについては、来年度予算の「試算額」が示されたので、それに基づき各科目に配分する案を決定しました。また、T・Fの配分案を受けて、T・Aの配分額を決定しました。

議題2. 令和2年4月の各種規程・要項等の一部改正について

外国語科目と日本語科目のカリキュラム改正にともなう全学教育科目規程改正、既修得単位の認定範

囲の変更などを決定しました。

議題3. 令和2年度道内国立大学の教養教育連携実施について

道内国立大学連携実施事業に本学から提供する科目を決定しました。また、同事業により道内各大学が提供する授業科目について、本学の全学教育科目として履修可能とするか否か、履修可能とする場合にはその科目名を決定しました。

議題4. 令和元年度全学教育委員会の検討事項の報告(案)について

全学教育科目のカリキュラム改正と実施の確認、全学教育科目負担軽減策の継続、新たな科目の開講数の維持、専門横断科目の運用体制の検討などを掲げています。

(全学教育部長 白木沢 旭兎)

## 学務委員会報告

### 第2回学務委員会(令和元年12月2日開催)

議題1. 令和2年度全学教育部・総合教育部行事予定表等について

議題2. 全学教育科目実行教育課程表の一部改正について

議題3. 2年次進級時における学部・学科等への移行点の算出基準単位表の一部改正について

議題1では、全学教育委員会で決定された原案が承認されました。議題2は、外国語科目および日本語科目のカリキュラム改正にともなう実行教育課程表の改正です。議題3は、同じく上記カリキュラム改正にともなう移行点算出基準の変更を決定したものです。

### 第3回学務委員会(令和2年2月27日開催)

議題1. 国立大学法人北海道大学組織規則の一部改正について

議題2. 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部改正について

議題3. 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構総合教育委員会学生専門委員会内規の制定について

議題4. 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構学務委員会総合教育教務・学生専門委員会内

規等の廃止について

議題5. 北海道大学の第1年次の学生に係る履修、修学等に関する規程の一部改正について

議題6. 北海道大学基礎クラス担任制度の実施に関する要項の一部改正について

議題7. 授業料未納者の取扱いについて

議題8. 進級判定、進級要件単位充足判定について

議題9. 第0次振り分け定員・第1次振り分け定員の決定について

議題10. 学生の懲戒について

議題1～議題4は、令和2年度から学務委員会が廃止されることにともなう規程改正で、現在の権限・機能は、新設される総合教育委員会、総合教育委員会学生専門委員会に引き継がれます。議題5は、国際交流科目の履修手続きの簡素化、既修得単位認定に、本学入学前に大学または短期大学の特別の課程を履修して修得した単位を含めること、などを定めたものです。議題6では、クラス担任幹事会およびクラス担任連絡会構成員に「学生相談総合センター学生相談室長」に代わって「学生相談総合センター長」を加えることとしました。議題8、9は1年次学生の学部学科等移行手続きを承認したものです。

(全学教育部長 白木沢 旭兎)

# 令和2年度 全学教育部・総合教育部行事予定表

## 第1学期

月日(曜日)	行 事
5 7(木)	履修調整・登録に関するガイダンス (オンライン実施)
8(金)~17(日)	第1次Web履修登録期間 (Web入力)
8(金)~17(日)	抽選科目登録期間 (Web入力)
11(月)	第1学期授業開始日
19(火)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
20(水)~21(木)	第2次Web履修登録期間 (Web入力)
28(木)	履修時間割確認期間
6 8(月)	6 講時授業実施開始※下記参照
29(月)~7/1(水)	履修登録科目の取消期間 (Web)
7 6(月)~8(水)	自由設計科目登録変更期間
10(金)	6 講時授業実施終了※下記参照
11(土)	TOEFL-ITP試験 (英語Ⅱ)
23(木)	祝日の授業実施日 (木曜授業)
24(金)	祝日の授業実施日 (金曜授業)
8 10(月)	祝日の授業実施日 (月曜授業)
17(月)	月曜日の授業終了日
18(火)	火曜日の授業終了日
19(水)	水曜日の授業終了日
20(木)	木曜日の授業終了日
21(金)	金曜日の授業終了日
22(土)	初習外国語統一試験日 (第1学期授業終了日)
24(月)~9/25(金)	夏季休業日
9 4(金)	全学教育科目成績Web上公開
4(金)~7(月)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
上旬~中旬	学科等分属手続:当該学部 (2年次以上)
20(日)~21(月)	オープンキャンパス

## 第2学期

月日(曜日)	行 事
9 23(水)午後	学部・学科等移行ガイダンス ※
24(木)	学部・学科等紹介
25(金)	ISP入学式
28(月)	第2学期授業開始日
28(月)~10/2(金)	学部・学科等移行手続き (予備志望調査) ※
28(月)~10/2(金)	抽選科目の申込期間 (Web入力)
10 6(火)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
6(火)	予備志望調査結果発表 ※
7(水)~13(火)	履修登録 (Web入力)
20(火)~21(水)	履修時間割確認期間
11 24(火)~26(木)	履修登録科目の取消期間 (Web)
30(月)~12/2(水)	自由設計科目登録変更期間
12 28(月)~1/4(月)	冬季休業日
1 5(火)	授業再開
15(金)	大学入学共通テスト準備 (休講)
16(土)~17(日)	大学入学共通テスト
20(水)	水曜日の授業終了日
21(木)	木曜日の授業終了日
26(火)	火曜日の授業終了日
27(水)	初習外国語統一試験日 (通常授業は休講)
28(木)	月曜の授業を行う日(木曜の授業は行わない)
29(金)	金曜日の授業終了日
2 1(月)	月曜日の授業終了日(第2学期授業終了日)
2(火)午後	学部・学科等移行ガイダンス ※
3(水)	学部・学科等紹介
15(月)	全学教育科目成績Web上公開
15(月)~16(火)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
25(木)~26(金)	一般入試個別学力検査等 (前期日程)
3 1(月)正午	全学教育科目成績確定
1(月)午後~	第1年次進級判定
1(月)午後	学部・学科等移行手続き ※
~3/22(月)	(第1回志望調査~各学部振り分け)
12(金)	一般入試個別学力検査等 (後期日程)

※ 総合入試入学者のみ対象

### ※ 6 講時 (18:15-19:45) 授業実施スケジュール

木曜1 講時の授業	6/8 (月) 実施	金曜5 講時の授業	6/9 (火) 実施	月曜5 講時の授業	6/10 (水) 実施
火曜1 講時の授業	6/11 (木) 実施	水曜5 講時の授業	6/12 (金) 実施	木曜2 講時の授業	6/15 (月) 実施
金曜1 講時の授業	6/16 (火) 実施	月曜1 講時の授業	6/17 (水) 実施	火曜3 講時の授業	6/18 (木) 実施
水曜1 講時の授業	6/19 (金) 実施	木曜3 講時の授業	6/22 (月) 実施	金曜2 講時の授業	6/23 (火) 実施
月曜2 講時の授業	6/24 (水) 実施	火曜5 講時の授業	6/25 (木) 実施	水曜2 講時の授業	6/26 (金) 実施
木曜4 講時の授業	6/29 (月) 実施	金曜3 講時の授業	6/30 (火) 実施	月曜3 講時の授業	7/1 (水) 実施
火曜2 講時の授業	7/2 (木) 実施	水曜3 講時の授業	7/3 (金) 実施	木曜5 講時の授業	7/6 (月) 実施
金曜4 講時の授業	7/7 (火) 実施	月曜4 講時の授業	7/8 (水) 実施	火曜4 講時の授業	7/9 (木) 実施
水曜4 講時の授業	7/10 (金) 実施				

### ※ 4 学期制実施スケジュール

	授業実施期間	履修取消期間	自由設計科目登録変更期間
春ターム	5/11 (月) ~ 6/26 (金)	6/5 (金) ~ 9 (火)	6/15 (月) ~ 17 (水)
夏ターム	6/29 (月) ~ 8/22 (土)	7/27 (月) ~ 29 (水)	8/3 (月) ~ 5 (水)
秋ターム	9/28 (月) ~ 11/24 (火)	11/2 (月) ~ 5 (木)	11/9 (月) ~ 11 (水)
冬ターム	11/25 (水) ~ 2/1 (月)	1/5 (火) ~ 7 (木)	1/12 (火) ~ 14 (木)

## 令和元/平成30年度(第1学期)全学教育科目履修者数対比表(履修取消後：R1.7.11現在)

区分	授 業 科 目	令和元年度1学期(履修取消後)			平成30年度1学期(履修取消後)			R1/H30年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習(フレッシュマンセミナー)	95	1,646	17.33	101	1,732	17.15	▲ 86	95.0%
	(集中・論文指導除く)小計	40	667	16.68	42	696	16.57	▲ 29	95.8%
	(集中・通年集中除く)小計	15	327	21.80	13	283	21.77	▲ 44	115.5%
	(論文指導)小計	40	653	16.33	46	753	16.37	▲ 100	86.7%
総合科目	環境と人間	14	845	60.36	17	807	47.47	▲ 38	104.7%
	環境と人間(1単位・春ターム)	2	96	48.00	2	119	59.50	▲ 23	80.7%
	環境と人間(1単位・夏ターム)	2	37	18.50	2	51	25.50	▲ 14	72.5%
	健康と社会	7	951	135.86	6	996	166.00	▲ 45	95.5%
	人間と文化	4	165	41.25	5	219	43.80	▲ 54	75.3%
	人間と文化(集中)	1	18	18.00	-	-	-	-	-
	人間と文化(1単位・春ターム)	1	61	61.00	1	41	41.00	▲ 20	148.8%
	人間と文化(1単位・夏ターム)	1	27	27.00	1	17	17.00	▲ 10	158.8%
	特別講義	1	1	1.00	0	0	-	▲ 1	-
	特別講義(集中)	2	29	14.50	2	6	3.00	-	-
	特別講義(1単位・春ターム)	1	297	297.00	3	207	69.00	▲ 90	143.5%
	特別講義(1単位・夏ターム)	1	279	279.00	3	181	60.33	▲ 98	154.1%
	総合科目 小計	37	2,806	75.84	42	2,644	62.95	▲ 162	106.1%
主題別科目	思索と言語	10	817	81.70	9	895	99.44	▲ 78	91.3%
	思索と言語(論文指導)	3	69	23.00	5	110	22.00	▲ 41	62.7%
	歴史の視座	6	316	52.67	7	358	51.14	▲ 42	88.3%
	歴史の視座(論文指導)	4	49	12.25	4	65	16.25	▲ 16	75.4%
	芸術と文学	9	849	94.33	8	642	80.25	▲ 207	132.2%
	芸術と文学(集中)	3	211	70.33	3	210	70.00	▲ 1	100.5%
	芸術と文学(論文指導)	4	48	12.00	3	31	10.33	▲ 17	154.8%
	社会の認識	23	1,170	50.87	25	1,225	49.00	▲ 55	95.5%
	社会の認識(論文指導)	7	89	12.71	9	116	12.89	▲ 27	76.7%
	社会の認識(1単位・春ターム)	0	0	-	0	0	-	▲ 0	-
	社会の認識(1単位・夏ターム)	0	0	-	0	0	-	▲ 0	-
	科学・技術の世界	15	1,427	95.13	17	1,540	90.59	▲ 113	92.7%
	科学・技術の世界(集中)	0	0	-	1	3	3.00	-	-
	科学・技術の世界(論文指導)	2	52	26.00	2	59	29.50	▲ 7	88.1%
	科学・技術の世界(1単位・春ターム)	4	200	50.00	4	225	56.25	▲ 25	88.9%
	科学・技術の世界(1単位・夏ターム)	4	126	31.50	4	139	34.75	▲ 13	90.6%
	科学・技術の世界(集中)(1単位・春ターム)	1	17	17.00	1	7	7.00	-	-
主題別科目 小計	95	5,440	57.26	102	5,625	55.15	▲ 185	96.7%	
(集中・論文指導除く)小計	71	4,905	69.08	74	5,024	67.89	▲ 119	97.6%	
(集中)小計	4	228	57.00	5	220	44.00	▲ 8	103.6%	
(論文指導)小計	20	307	15.35	23	381	16.57	▲ 74	80.6%	
共通科目	体育学A(実技・1単位)	41	1,103	26.90	52	1,315	25.29	▲ 212	83.9%
	体育学B(講義・2単位)	2	222	111.00	1	152	152.00	▲ 70	146.1%
	情報学	18	2,656	147.56	18	2,671	148.39	▲ 15	99.4%
	統計学	11	883	80.27	11	854	77.64	▲ 29	103.4%
	インターンシップ	(2)	-	-	(2)	115	-	-	-
	共通科目 小計	72	4,864	67.56	82	5,107	62.28	▲ 243	95.2%
外国語を除く教養科目 合計		299	14,756	49.35	327	15,108	46.20	▲ 352	97.7%
うち論文指導(主題別・一般教育演習)小計		60	960	16.00	69	1,134	16.43	▲ 174	84.7%
外国語科目	英語	137	5,245	38.28	137	5,317	38.81	▲ 72	98.6%
	ドイツ語	25	911	36.44	25	957	38.28	▲ 46	95.2%
	フランス語	12	426	35.50	12	416	34.67	▲ 10	102.4%
	ロシア語	5	128	25.60	5	153	30.60	▲ 25	83.7%
	スペイン語	7	274	39.14	6	240	40.00	▲ 34	114.2%
	中国語	21	818	38.95	21	803	38.24	▲ 15	101.9%
	韓国語	5	155	31.00	5	141	28.20	▲ 14	109.9%
外国語科目 小計	212	7,957	37.53	211	8,027	38.04	▲ 70	99.1%	
外国語演習	英語演習	84	1,092	13.00	97	1,319	13.60	▲ 227	82.8%
	英語演習(集中)	4	102	25.50	6	91	15.17	▲ 11	112.1%
	ドイツ語演習	15	285	19.00	17	400	23.53	▲ 115	71.3%
	フランス語演習	11	177	16.09	11	169	15.36	▲ 8	104.7%
	ロシア語演習	6	70	11.67	6	83	13.83	▲ 13	84.3%
	スペイン語演習	9	155	17.22	9	141	15.67	▲ 14	109.9%
	中国語演習	16	271	16.94	14	282	20.14	▲ 11	96.1%
	韓国語演習	5	43	8.60	5	50	10.00	▲ 7	86.0%
	外国語特別演習	7	125	17.86	7	113	16.14	▲ 12	110.6%
	外国語演習 小計	157	2,320	14.78	172	2,648	15.40	▲ 328	87.6%
外国語 合計		369	10,277	27.85	383	10,675	27.87	▲ 398	96.3%

区分	授 業 科 目	令和元年度 1 学期 (履修取消後)			平成30年度 1 学期 (履修取消後)			R1 / H30年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	12	1,131	94.25	11	1,182	107.45	▲ 51	95.7%
	文系基礎科目 小計	12	1,131	94.25	11	1,182	107.45	▲ 51	95.7%
	線形代数学	34	1,934	56.88	33	1,919	58.15	▲ 15	100.8%
	微分積分学	34	1,935	56.91	34	1,962	57.71	▲ 27	98.6%
	数学概論	2	15	7.50	2	24	12.00	▲ 9	62.5%
	数学 小計	70	3,884	55.49	69	3,905	56.59	▲ 21	99.5%
	物理学	24	1,852	77.17	24	1,858	77.42	▲ 6	99.7%
	化学	29	1,829	63.07	29	1,863	64.24	▲ 34	98.2%
	生物学	21	1,811	86.24	21	1,816	86.48	▲ 5	99.7%
	地球惑星科学	6	665	110.83	6	620	103.33	▲ 45	107.3%
	理科 小計	80	6,157	76.96	80	6,157	76.96	▲ 0	100.0%
	基礎自然科学実験	-	-	-	1	12	12.00	-	-
	自然科学実験	16	991	61.94	16	972	60.75	▲ 19	102.0%
	実験 小計	16	991	61.94	17	984	57.88	▲ 7	100.7%
	基礎科目 合計	178	12,163	68.33	177	12,228	69.08	▲ 65	99.5%
日本語・日本事情	4	21	5.25	2	21	10.50	▲ 0	100.0%	
全学教育科目 1 学期合計	850	37,217	43.78	889	38,032	42.78	▲ 815	97.9%	

※ 一般教育演習集中講義「グローバルキャリアデザイン」及び「インターンシップ」の履修者数は、未定のため、「R1 / H30年度比較」欄は、これらを除いて算出している。

※ 4 学期制科目 (夏ターム) については、取消期間前のため、履修取消前のデータを算出している。

※ 教養教育連携事業 (受信科目) については除外

外国語科目の詳細

区分	授 業 科 目 (細目)	令和元年度 1 学期 (履修取消後)			平成30年度 1 学期 (履修取消後)			R1 / H30年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
外国語科目	英語 I	78	2,545	32.63	78	2,575	33.01	▲ 30	98.8%
	英語 II (1 年次・CALL)	51	2,549	49.98	51	2,581	50.61	▲ 32	98.8%
	英語 (再履修)	8	151	18.88	8	161	20.13	▲ 10	93.8%
	英語 小計	137	5,245	38.28	137	5,317	38.81	▲ 72	98.6%
	ドイツ語	24	858	35.75	24	912	38.00	▲ 54	94.1%
	ドイツ語 (再履修)	1	53	53.00	1	45	45.00	▲ 8	117.8%
	ドイツ語 小計	25	911	36.44	25	957	38.28	▲ 46	95.2%
	フランス語	11	408	37.09	11	400	36.36	▲ 8	102.0%
	フランス語 (再履修)	1	18	18.00	1	16	16.00	▲ 2	112.5%
	フランス語 小計	12	426	35.50	12	416	34.67	▲ 10	102.4%
	ロシア語	4	123	30.75	4	141	35.25	▲ 18	87.2%
	ロシア語 (再履修)	1	5	5.00	1	12	12.00	▲ 7	41.7%
	ロシア語 小計	5	128	25.60	5	153	30.60	▲ 25	83.7%
	スペイン語	6	257	42.83	5	218	43.60	▲ 39	117.9%
	スペイン語 (再履修)	1	17	17.00	1	22	22.00	▲ 5	77.3%
	スペイン語 小計	7	274	39.14	6	240	40.00	▲ 34	114.2%
	中国語	20	776	38.80	20	773	38.65	▲ 3	100.4%
	中国語 (再履修)	1	42	42.00	1	30	30.00	▲ 12	140.0%
	中国語 小計	21	818	38.95	21	803	38.24	▲ 15	101.9%
	韓国語	4	152	38.00	4	135	33.75	▲ 17	112.6%
	韓国語 (再履修)	1	3	3.00	1	6	6.00	▲ 3	50.0%
韓国語 小計	5	155	31.00	5	141	28.20	▲ 14	109.9%	
外国語科目 合計	212	7,957	37.53	211	8,027	38.04	▲ 70	99.1%	
(1 年次・CALL 除く) 小計	147	5,119	34.82	146	5,154	35.30	▲ 35	99.3%	
(1 年次・CALL) 小計	51	2,549	49.98	51	2,581	50.61	▲ 32	98.8%	
(再履修) 小計	14	289	20.64	14	292	20.86	▲ 3	99.0%	

理科基礎科目の詳細

理科基礎科目	物理学	23	1,826	79.39	23	1,837	79.87	▲ 11	99.4%
	物理学 (再履修)	1	26	26.00	1	21	21.00	▲ 5	123.8%
	物理学 小計	24	1,852	77.17	24	1,858	77.42	▲ 6	99.7%
	化学	28	1,811	64.68	28	1,835	65.54	▲ 24	98.7%
	化学 (再履修)	1	18	18.00	1	28	28.00	▲ 10	64.3%
	化学 小計	29	1,829	63.07	29	1,863	64.24	▲ 34	98.2%
	生物学	20	1,798	89.90	20	1,801	90.05	▲ 3	99.8%
	生物学 (再履修)	1	13	13.00	1	15	15.00	▲ 2	86.7%
	生物学 小計	21	1,811	86.24	21	1,816	86.48	▲ 5	99.7%
	地球惑星科学	6	665	110.83	6	620	103.33	▲ 45	107.3%
	地学 小計	6	665	110.83	6	620	103.33	▲ 45	107.3%
	理科 (実験除く) 合計	80	6,157	76.96	80	6,157	76.96	▲ 0	100.0%
	物理学・化学・生物学・地球惑星科学 小計	77	6,100	79.22	77	6,093	79.13	▲ 7	100.1%
(再履修) 小計	3	57	19.00	3	64	21.33	▲ 7	89.1%	

## 令和元/平成30年度(第2学期)全学教育科目履修者数対比表(履修取消後：R2.1.9現在)

区分	授 業 科 目	令和元年度2学期			平成30年度2学期			R1/H30年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	64	952	14.88	60	940	15.67	12	101.3%
	(集中・論文指導除く) 小計	36	495	13.75	33	462	14.00	33	107.1%
	(集中) 小計	12	242	20.17	11	245	22.27	▲ 3	98.8%
	(論文指導) 小計	16	215	13.44	16	233	14.56	▲ 18	92.3%
総合科目	環境と人間	10	1,391	139.10	11	1,518	138.00	▲ 127	91.6%
	環境と人間 (1単位・秋ターム)	1	56	56.00	1	91	91.00	▲ 35	61.5%
	環境と人間 (1単位・冬ターム)	1	20	20.00	1	35	35.00	▲ 15	57.1%
	健康と社会	5	1,052	210.40	6	907	151.17	145	116.0%
	人間と文化	6	430	71.67	6	285	47.50	145	150.9%
	人間と文化 (1単位・秋ターム)	0	0	-	1	121	121.00	▲ 121	0.0%
	人間と文化 (1単位・冬ターム)	0	0	-	1	91	91.00	▲ 91	0.0%
	特別講義	1	5	5.00	1	7	7.00	▲ 2	71.4%
	特別講義 (1単位・秋ターム)	1	29	29.00	1	56	56.00	▲ 27	51.8%
	特別講義 (1単位・冬ターム)	1	20	20.00	1	31	31.00	▲ 11	64.5%
総合科目 小計	26	3,003	115.50	30	3,142	104.73	▲ 139	95.6%	
主題別科目	思索と言語	4	1,012	253.00	6	844	140.67	168	119.9%
	思索と言語 (論文指導)	3	31	10.33	2	57	28.50	▲ 26	54.4%
	歴史の視座	8	836	104.50	8	695	86.88	141	120.3%
	歴史の視座 (論文指導)	2	54	27.00	3	94	31.33	▲ 40	57.4%
	芸術と文学	8	1,001	125.13	8	1,442	180.25	▲ 441	69.4%
	芸術と文学 (論文指導)	3	49	16.33	2	50	25.00	▲ 1	98.0%
	社会の認識	21	1,718	81.81	12	1,453	121.08	265	118.2%
	社会の認識 (集中)	1	19	19.00	1	17	17.00	2	111.8%
	社会の認識 (論文指導)	6	61	10.17	8	112	14.00	▲ 51	54.5%
	科学・技術の世界	14	994	71.00	17	932	54.82	62	106.7%
	科学・技術の世界 (1単位・秋ターム)	3	171	57.00	4	145	36.25	26	117.9%
	科学・技術の世界 (1単位・冬ターム)	3	115	38.33	4	101	25.25	14	113.9%
	科学・技術の世界 (論文指導)	1	2	2.00	1	3	3.00	▲ 1	66.7%
主題別科目 小計	77	6,063	78.74	76	5,945	78.22	118	102.0%	
(集中・論文指導除く) 小計	61	5,847	95.85	59	5,612	95.12	235	104.2%	
(集中) 小計	1	19	19.00	1	17	17.00	2	111.8%	
(論文指導) 小計	15	197	13.13	16	316	19.75	▲ 119	62.3%	
共通科目	体育学A (実技・1単位)	36	784	21.78	35	777	22.20	7	100.9%
	体育学B (講義・2単位)	3	480	160.00	3	478	159.33	2	100.4%
	情報学	11	574	52.18	11	606	55.09	▲ 32	94.7%
	統計学	9	658	73.11	9	635	70.56	23	103.6%
	共通科目 小計	59	2,496	42.31	58	2,496	43.03	0	100.0%
外国語を除く教養科目 合計		226	12,514	55.37	224	12,523	55.91	▲ 9	99.9%
うち論文指導 (主題別・一般教育演習) 小計		31	412	13.29	32	549	17.16	▲ 137	75.0%
外国語科目	英語	146	4,304	29.48	144	4,428	30.75	▲ 124	97.2%
	ドイツ語	25	881	35.24	25	948	37.92	▲ 67	92.9%
	フランス語	12	415	34.58	12	412	34.33	3	100.7%
	ロシア語	5	126	25.20	5	140	28.00	▲ 14	90.0%
	スペイン語	7	275	39.29	6	219	36.50	56	125.6%
	中国語	21	814	38.76	21	809	38.52	5	100.6%
	韓国語	5	152	30.40	5	139	27.80	13	109.4%
外国語科目 小計	221	6,967	31.52	218	7,095	32.55	▲ 128	98.2%	
外国語演習	英語演習 (集中含む)	60	864	14.40	69	877	12.71	▲ 13	98.5%
	ドイツ語演習	20	291	14.55	16	309	19.31	▲ 18	94.2%
	フランス語演習	12	254	21.17	12	230	19.17	24	110.4%
	ロシア語演習	6	61	10.17	7	91	13.00	▲ 30	67.0%
	スペイン語演習	8	129	16.13	9	130	14.44	▲ 1	99.2%
	中国語演習	20	423	21.15	21	386	18.38	37	109.6%
	韓国語演習	5	90	18.00	5	61	12.20	29	147.5%
	外国語特別演習	10	179	17.90	13	225	17.31	▲ 46	79.6%
外国語演習 小計	141	2,291	16.25	152	2,309	15.19	▲ 18	99.2%	
外国語 合計		362	9,258	25.57	370	9,404	25.42	▲ 146	98.4%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	3	714	238.00	4	754	188.50	▲ 40	94.7%
	文系基礎科目 小計	3	714	238.00	4	754	188.50	▲ 40	94.7%
	線形代数学	28	964	34.43	28	1,007	35.96	▲ 43	95.7%
	微分積分学	28	1,377	49.18	28	1,376	49.14	1	100.1%
	数学概論	1	4	4.00	1	6	6.00	▲ 2	66.7%
数学 小計	57	2,345	41.14	57	2,389	41.91	▲ 44	98.2%	

区分	授 業 科 目	令和元年度 2 学期			平成30年度 2 学期			R1 / H30年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
基礎科目	物理学	23	1,833	79.70	24	1,813	75.54	▲ 20	101.1%
	化学	27	1,824	67.56	27	1,835	67.96	▲ 11	99.4%
	生物学	21	1,456	69.33	21	1,447	68.90	▲ 9	100.6%
	地球惑星科学	6	896	149.33	6	936	156.00	▲ 40	95.7%
	理科 小計	77	6,009	78.04	78	6,031	77.32	▲ 22	99.6%
	心理学実験	4	101	25.25	4	96	24.00	▲ 5	105.2%
	自然科学実験	17	995	58.53	17	1,012	59.53	▲ 17	98.3%
	実験 小計	21	1,096	52.19	21	1,108	52.76	▲ 12	98.9%
	基礎科目 合計	158	10,164	64.33	160	10,282	64.26	▲ 118	98.9%
	日本語・日本事情	1	11	11.00	1	13	13.00	▲ 2	84.6%
全学教育科目 2 学期合計	747	31,947	42.77	755	32,222	42.68	▲ 275	99.1%	
全学教育科目 1 学期合計	855	37,345	43.68	892	38,059	42.67	▲ 714	98.1%	
全学教育科目 1・2 学期合計	1,602	69,292	43.25	1,647	70,281	42.67	▲ 989	98.6%	

※ 一般教育演習（企業がかかえる課題をみんなで解決しよう！Ⅱ）を除く  
 ※ 教養教育連携事業（受信科目）については除外  
 ※ 現代日本学プログラム課程、ISPのみを対象とした科目は除外

外国語科目の詳細

区分	授 業 科 目 (細目)	令和元年度 2 学期			平成30年度 2 学期			R1 / H30年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
外国語科目	英語Ⅲ	76	2,103	27.67	73	2,155	29.52	▲ 52	97.6%
	英語Ⅳ	65	2,098	32.28	66	2,161	32.74	▲ 63	97.1%
	英語 (再履修)	5	103	20.60	5	112	22.40	▲ 9	92.0%
	英語 小計	146	4,304	29.48	144	4,428	30.75	▲ 124	97.2%
	ドイツ語Ⅱ	24	859	35.79	24	917	38.21	▲ 58	93.7%
	ドイツ語Ⅰ (再履修)	1	22	22.00	1	31	31.00	▲ 9	71.0%
	ドイツ語 小計	25	881	35.24	25	948	37.92	▲ 67	92.9%
	フランス語Ⅱ	11	406	36.91	11	397	36.09	▲ 9	102.3%
	フランス語Ⅰ (再履修)	1	9	9.00	1	15	15.00	▲ 6	60.0%
	フランス語 小計	12	415	34.58	12	412	34.33	▲ 3	100.7%
	ロシア語Ⅱ	4	123	30.75	4	135	33.75	▲ 12	91.1%
	ロシア語Ⅰ (再履修)	1	3	3.00	1	5	5.00	▲ 2	60.0%
	ロシア語 小計	5	126	25.20	5	140	28.00	▲ 14	90.0%
	スペイン語Ⅱ	6	260	43.33	5	217	43.40	▲ 43	119.8%
	スペイン語Ⅰ (再履修)	1	15	15.00	1	2	2.00	▲ 13	750.0%
	スペイン語 小計	7	275	39.29	6	219	36.50	▲ 56	125.6%
	中国語Ⅱ	20	764	38.20	20	763	38.15	▲ 1	100.1%
	中国語Ⅰ (再履修)	1	50	50.00	1	46	46.00	▲ 4	108.7%
	中国語 小計	21	814	38.76	21	809	38.52	▲ 5	100.6%
	韓国語Ⅱ	4	147	36.75	4	134	33.50	▲ 13	109.7%
韓国語Ⅰ (再履修)	1	5	5.00	1	5	5.00	▲ 0	100.0%	
韓国語 小計	5	152	30.40	5	139	27.80	▲ 13	109.4%	
外国語科目 合計	221	6,967	31.52	218	7,095	32.55	▲ 128	98.2%	
(英語Ⅲ・Ⅳ・初習外国語Ⅱ) 小計	210	6,760	32.19	207	6,879	33.23	▲ 119	98.3%	
(再履修) 小計	11	207	18.82	11	216	19.64	▲ 9	95.8%	

理科基礎科目の詳細

理科基礎科目	物理学Ⅱ	22	1,792	81.45	23	1,793	77.96	▲ 1	99.9%
	物理学Ⅰ (再履修)	1	41	41.00	1	20	20.00	▲ 21	205.0%
	物理学 小計	23	1,833	79.70	24	1,813	75.54	▲ 20	101.1%
	化学Ⅱ	26	1,806	69.46	26	1,814	69.77	▲ 8	99.6%
	化学Ⅰ (再履修)	1	18	18.00	1	21	21.00	▲ 3	85.7%
	化学 小計	27	1,824	67.56	27	1,835	67.96	▲ 11	99.4%
	生物学Ⅱ	20	1,439	71.95	20	1,439	71.95	▲ 0	100.0%
	生物学Ⅰ (再履修)	1	17	17.00	1	8	8.00	▲ 9	212.5%
	生物学 小計	21	1,456	69.33	21	1,447	68.90	▲ 9	100.6%
	地球惑星科学Ⅱ	6	896	149.33	6	936	156.00	▲ 40	95.7%
	地学 小計	6	896	149.33	6	936	156.00	▲ 40	95.7%
	理科(実験除く) 合計	77	6,009	78.04	78	6,031	77.32	▲ 22	99.6%
(物理学・化学・生物学・地球惑星科学) 小計	74	5,933	80.18	75	5,982	79.76	▲ 49	99.2%	
(再履修) 小計	3	76	25.33	3	49	16.33	▲ 27	155.1%	



## 教育評価 EDUCATIONAL EVALUATION

### 2019年度学生調査，卒業生調査および大学院生調査を実施

本学では、成績から測ることが難しい汎用的能力などを学生に自己評価してもらい教育改善に役立てることを目的に1年生と3年生の全学生を対象にした学生調査を毎年実施しています。また、学士課程卒業後5，10，15年後の卒業生を対象に在学中の学修や就職状況などについてたずねる卒業生調査も毎年実施しています。さらに、2019年度より大学院生調査を開始しました。全学年を対象とした学修状況調査であり、一部の調査項目は学生調査，卒業生調査と共通になっています。それらの実施状況，特に回答回収率について報告します。

学生調査については、今回、試行として獣医学部5年生も対象としました。上級生の調査については、全学部3年生を対象としてきましたが、学年を経るに従って変化する学生の学修状況や将来設計の意識などを考慮した場合、4年制学部の3年生に当たるのは、6年制の学部においては5年生ではないかとの声があり、今回の試行に至りました。回答率は、5年生の方が若干低い結果となりましたが、今後分析を進め、回答内容も考慮し、適切な対象学年を検討したいと思います。

調査項目は、本学も加盟する大学IRコンソーシアム（2019年10月7日現在国公私立大学62大学が加

盟）が提供する共通調査項目を用いており、今回は同調査項目で実施する8回目の調査となります。Webアンケートシステムにより、11月25日から12月6日まで調査を実施し、さらに12月13日まで回答期間を延長しました。

今回の回答回収率は、1年生が21.4% 3年生が11.2%でした。前年比では、1年生が1.9ポイントの増加，3年生が0.3ポイントの減少となりました（図1）。1年生はここ数年隔年で数ポイントの増減を繰り返しており、3年生は10数%の回収率で安定しています。毎年、回収率の向上を課題に挙げており、1年生については例年と同じくELMSを通じたメールによる案内に加え、全学教育の英語科目ご担当の先生方にご協力をいただき、調査協力依頼文書を配布しています。3年生についても、メールでの案内に加え、各学部で依頼文書の配布等の周知をお願いしています。2019年度は、文部科学省も各大学の教育改善に活かすことなどを目的に同様の全国学修状況調査の試行を開始しており、調査の重要性は高まっていますが、回答率の上昇には結びついていません。回答する学生にとっては、教育改善の結果を実感できることが重要です。学生の意見が大学の教育活動に反映され、このような調査が学生と大学と

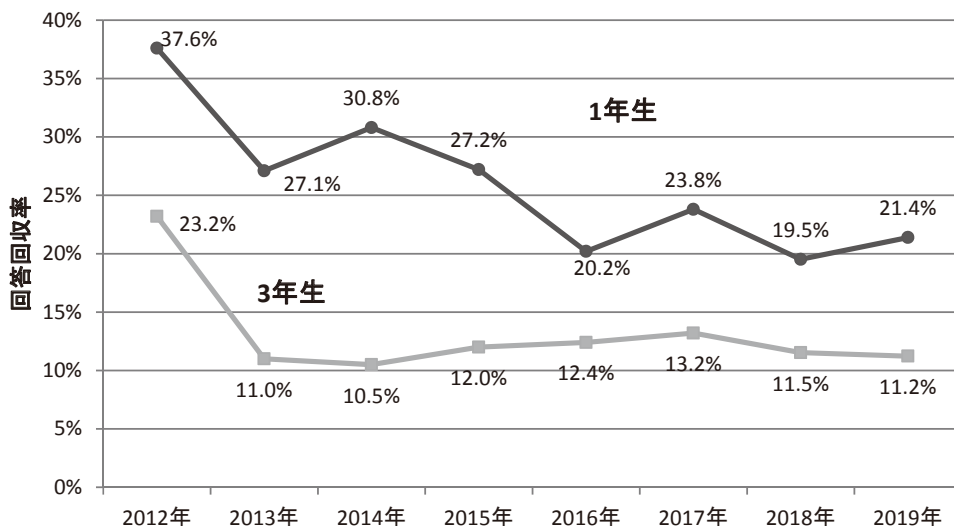


図1 学生調査の回答回収率経年変化

の適切な意見交換の場になり得ることを実感してもらうことができれば、回答率が上がっていくと考えられます。学生に回答を促していただくのに加えて、毎年秋に各学部で報告している本調査結果を有効に利用して教育改善につなげていただければと思います。

続いて、前年度より質問用紙返送とWeb上での回答の併用で行っている卒業生調査の実施状況について報告します。12月18日に案内を発送し、1月15日締め切りで実施しました。遅れて届いた回答については、2月末まで有効としました。全体の回収率は、25.3%であり、前年度比マイナス1.6ポイントでした(表1)。郵便とWebそれぞれの回答率は、全回答の49.1%(昨年46.0%)、50.9%(同54.0%)でした。Web上での回答が可能になったことにより、徐々にWebによる回答が増え、全体の回収率も向上することを期待していますが、Webによる回答率は前回よりも下がり、その効果は確認できません。両方法を併用する限り、両者の回答率は概ね5:5になると考えられますので、集計の手間を考慮してWeb調査のみに移行することも検討したいと思えます。表1には、学部別の回収率も示しています。例年と同じく、13.5%から48.8%まで大きな学部間差があります。また、例年文系学部比べて理系学部の回収率が高い傾向がありますが、今回文学部は

32.2%、教育学部は24.6%と平均程度以上の回収率であり、継続して上昇することが期待されます。回収率向上への工夫としては、調査協力案内の封筒に「アンケート在中」と記載し、キャンパスの風景写真を掲載したチラシを同封しています。在校生を対象とした学生調査よりも高い回収率が得られ、卒業生調査としては他大学よりも高い回収率を得られているのは、本学卒業生の高い帰属意識の表れと考えられます。しかし、回収率の経年変化は、25%前後で非常に安定しており、これ以上の向上は難しい状況です。

最後に、大学院生調査の実施状況です。修士課程、博士課程、専門職学位課程に在籍の全大学院生6,000名以上を対象にWebアンケートシステムにより調査を行いました。調査期間は、当初10月28日から11月8日まで実施しましたが、その後11月30日まで延長しました。アンケートシステムは、12月9日まで稼働させ、それまでの回答を有効としました。学生へは2回ELMSを通じてメールにより協力依頼を送り、各部局の担当へは回答期間延長の連絡を2度行い、学生への周知をお願いしました。対象大学院生には留学生も在籍することから、質問、依頼文書は英語化したものも用意して実施しました。全体の回収率は11.0%であり、学部3年生対象の学生調査と同程度でした。部局ごとの回収率を表2に示します。

表1 卒業生調査回収率

学 部 名	総発送数	宛先不明数	実送数	郵便による回答数	Web回答数	回答合計数(郵便+web)	全回答の内郵便回答率(%)	全回答の内Web回答率(%)	実質回収率(%)
文学部	126	8	118	17	21	38	44.7	55.3	32.2
教育学部	66	5	61	8	7	15	53.3	46.7	24.6
法学部	393	12	381	50	28	78	64.1	35.9	20.5
経済学部	251	6	245	15	18	33	45.5	54.5	13.5
理学部	618	114	504	42	69	111	37.8	62.2	22.0
医学部医学科	215	3	212	38	30	68	55.9	44.1	32.1
医学部保健学科	211	36	175	28	15	43	65.1	34.9	24.6
歯学部	95	3	92	13	7	20	65.0	35.0	21.7
薬学部	194	11	183	23	23	46	50.0	50.0	25.1
工学部	402	33	369	35	82	117	29.9	70.1	31.7
農学部	237	13	224	41	28	69	59.4	40.6	30.8
獣医学部	91	11	80	20	19	39	51.3	48.7	48.8
水産学部	193	5	188	22	18	40	55.0	45.0	21.3
合 計	3,092	260	2,832	352	365	717	49.1	50.9	25.3

全部局から回答がありましたが、回収率は2.7%から33.8%まで大きな部局間差があります。大学院生調査においては、自由記述に特徴が見られました。学部生対象の学生調査の自由記述は、一言から長くても数行の意見ですが、大学院生においては平均200字程度の意見が寄せられ、1000字程度の意見も複数寄せられました。これまで定期的に行われている大学院生対象の調査はなく、意見を述べる場がな

かったためだと思われます。

以上、3つの調査については、現在分析を進めています。結果は、各部局へ報告をしますので、分析結果のみならず、自由記述も参考にして学生にとってより良い教育・研究環境となるよう改善を進めていただければと考えています。

(宮本 淳)

表2 大学院生調査回収率

大 学 院	在籍者数 (2019/10/24現在)	回 答 数	回 収 率 (%)
文学院／文学研究科	377	68	18.0
法学研究科	143	32	22.4
情報科学院／情報科学研究科	581	95	16.4
水産科学院	296	64	21.6
環境科学院	474	49	10.3
理学院	443	23	5.2
農学院	538	63	11.7
生命科学院	448	34	7.6
教育学院	198	18	9.1
国際広報メディア・観光学院	183	29	15.8
保健科学院	149	22	14.8
工学院	1,021	72	7.1
総合化学院	456	52	11.4
経済学院／経済学研究科	174	12	6.9
医学院／医学研究科	512	14	2.7
歯学院／歯学研究科	149	13	8.7
獣医学院／獣医学研究科	71	7	9.9
医理工学院	48	2	4.2
国際感染症学院	43	6	14.0
国際食資源学院	42	7	16.7
公共政策学教育部	65	22	33.8
合 計	6,411	704	11.0

## 学生支援 STUDENT SUPPORT

# 2020年度夏季休暇における 「全学インターンシップ」の実施に向けて

—今年度は新型コロナウイルスの影響を受け  
学生への説明や手続き，日程の大幅な変更—

キャリアセンターと共同で，全学教育科目として「インターンシップA(国内)」及び「インターンシップB(国内)」を開講していますが，今年度については，新型コロナウイルスの影響もあり，履修説明の方法，日程，プレ研修の内容などに大幅な変更が余儀なくされています。現時点でのおおよそのスケジュールは表1のとおりですが，さらなる日程の変更や場合によってはインターンシップ自体の縮小・中止の可能性もあります。

まず，インターンシップ希望学生に対する意識の醸成を図るため，4月24日にキャリアセンターと共催で「インターンシップではじめる!!就活準備ガイダンス」を開催予定でしたが，中止となりました。

さらに，制度の概要，スケジュール，手続き，心

構えなどについて説明するため5月8日及び11日(クラーク会館講堂)に予定していた「全学インターンシップ履修説明会」はすべてMoodle上で行うことにしました。

また，昨年度から新たな試みとして本格的に実施してきた「インターンシッププレ研修」については，5月に開催予定であった3つのうち，グループワークを伴うものは中止し，インターンシップ先企業の選び方や企業・業界研究の実践などについては，動画配信を行う予定です。また，7月に予定しているマナー講習については現時点では実施方法は未定です。

その後の日程については，例年よりもおおむね2週間程度後ろ倒しで実施していく予定です。まず，

表1 2020年度 全学インターンシップ スケジュール(予定)

4月24日(金)	「インターンシップではじめる!!就活準備ガイダンス」(中止)
5月中旬～	学生向け履修説明(Moodleの活用)
5月中旬～	参加申込登録(学生)(Moodleの活用)
5月下旬	「インターンシッププレ研修(就活戦略ガイダンス)」(動画配信)
5月23日(土)	「インターンシッププレ研修(グループワーク)」(中止)
6月上旬	「インターンシッププレ研修(エントリーシート対策)」(動画配信)
6月下旬まで	受入申込登録(企業)
7月3日(金)～7日(火)	参加希望企業名登録(学生)
7月9日(木)	第1次マッチング結果の通知
7月16日(木)～20日(月)	先着マッチング(第1次マッチングがされなかった学生と企業のマッチング)
7月21日(火)，22日(水)	事前研修①実施
7月28日(火)，29日(水)	事前研修②実施
7月下旬	事前研修①②(函館キャンパス)実施
7月下旬	「インターンシッププレ研修(マナー講習)」
8月上旬	個人面談(学生と担当教員)
夏季休暇期間	インターンシップ参加(学生)
インターンシップ終了後1ヶ月以内	研修成果レポートの提出(学生)
10月	「インターンシップ成果発表共有会」(学生，企業)

6～7月にかけて、参加希望学生と企業等のマッチングを行い、参加が決まった学生に対しては7月21日、22日、28日、29日（函館キャンパスは別途実施予定）に講義形式の事前研修を実施し、その後、1名あたり15分の個人面談も実施する予定です。

この事前研修や個人面談では、インターンシップ先の企業・団体や業界等の研究を行うとともに、インターンシップを通じて検証したい仮説をインターンシップ前に設定し、インターンシップを通じてその検証を行う予定です。同時に、学生はインターンシップ先の企業等に対して連絡を取り、札幌近辺の場合は事前に訪問し、打ち合わせを行っています。仮説の検証や学生自らの連絡・打ち合わせの実施

は、1～2週間という短期間のインターンシップの効果をもっと高めるため、北大独自の方式となっています。

これらを経て、参加学生はそれぞれの企業・団体で夏季休暇中にインターンシップ実習を行う予定です。

インターンシップ終了後には、1ヶ月以内に研修成果レポートを各自提出するとともに、10月には、参加学生の「インターンシップ成果発表共有会」を開催し、受入企業にも参加していただき、インターンシップの成果を共有する予定です。

(亀野 淳)

## 経済同友会と連携した 長期インターンシッププログラムの実施

2016年度から公益社団法人経済同友会が実施する「望ましいインターンシップの枠組み」の趣旨に本学も賛同し、経済同友会が実施するインターンシップに参加してきましたが、昨年度より経済同友会が中心となり「一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会」を設立し、本学も正会員として参画することとなり、昨年度からは同協会の一員として夏季休暇中にインターンシップを実施することになりました。

本インターンシップは経済同友会が提唱した学部1、2年生からの3～4週間程度の長期インターンシップです。つまり、最近の多くのインターンシップが1週間程度の短期のものが中心であり、また、参加学生も就職を次年度に控えた学部3年生や修士1年生が大部分を占める中で、本インターンシップ

はより教育的要素を強くしたものです。

本学からは、昨年度は11社11名の学生派遣でしたが、今年度は、野村證券、日本航空、コニカミノルタ、三菱ケミカル、JR東日本、三井不動産、KDDI、凸版印刷、住友林業、小松製作所の各1名、計10社、10名の学生を派遣することとなりました。今年度は東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていた関係でインターンシップの実施期間が短縮された企業もありますが、多くの企業の協力を得て昨年度と同程度の受入学生の枠を確保することができました。

今後、6月中旬ころに参加希望学生の募集を行います。その後、書類審査と面接を行い、上記の企業への派遣学生を決定する予定です。

(亀野 淳)

## 日誌 EVENTS, December-March

### 12月

- 1日 (行事) 第3回新渡戸カレッジ対話プログラム (学部)
- 2日 (会議) 第2回新渡戸カレッジ評価委員会
- 3日・5日 (行事) 新渡戸カレッジ専門職倫理セミナー 2019 (大学院)
- 4日 (行事) 新渡戸カレッジ「大学院発展科目Ⅰ」公開授業 (大学院)
- 5日 (会議) 教育情報システム専門部会
- 7日 (行事) 新渡戸カレッジフェローゼミ全体発表会 (学部)
- 9日 (研修) 令和元年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修 (高等教育研修センター)
- 9日 (講演) 新渡戸カレッジ特別講演会 (辻滋晴氏) (学部)
- 10日 (会議) 入学者選抜委員会
- 10日 (行事) AO入試 (大学入試センター試験を課さない学部・学科)・帰国子女入試・国際総合入試合格発表
- 17日 (会議) 令和元年度 第2回大学院共通教育委員会
- 18日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
- 20日 (会議) 第7回新渡戸カレッジ定例会 (学部)
- 20日 (行事) 新渡戸カレッジふゆの茶話会 (学部)
- 24日 (会議) 令和元年度第8回高等教育推進機構運営委員会
- 26日～1月6日 (行事) 私費外国人留学生入試願書受付

### 1月

- 10日 (会議) 第8回新渡戸カレッジ執行部会
- 12日～25日 (行事) 展示・「ヒト・トナリ」
- 15日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会

- 17日 (会議) 令和元年度第9回高等教育推進機構運営委員会
- 18日～19日 (試験) 大学入試センター試験
- 26日 (行事) 討論劇と評決ワークショップ「“わたし”は機械で取り戻せるのか? ～討論劇で問うブレイン・マシン・インターフェース開発の是非～」
- 27日～2月5日 (行事) 一般入試願書受付 (前期日程・後期日程)
- 29日 (会議) 第1回教務委員会教務情報システム専門委員会
- 30日 (会議) 第4回総合教育教務・学生専門委員会
- 31日 (研修) 高等教育機関における精神障害の理解と対応 (高等教育研修センター)
- 31日 (会議) 第8回新渡戸カレッジ定例会 (学部)

### 2月

- 1日 (会議) 第3回新渡戸カレッジ評価委員会
- 1日 (行事) 新渡戸カレッジ「大学院基礎科目Ⅱ」公開授業 (大学院)
- 1日 (行事) 第2回新渡戸カレッジメンターフォーラム (大学院)
- 5日 (行事) 新渡戸カレッジ「大学院発展科目Ⅱ」公開授業 (大学院)
- 5日 (行事) 学部・学科等移行ガイダンス
- 5日・6日・10日・12日・17日・18日 (研修) 実用英会話 (業務英会話) 研修 (高等教育研修センター)
- 6日 (行事) 学部・学科等紹介
- 7日～13日 (会議) 令和元年度第10回高等教育推進機構運営委員会
- 7日 (研修) 英語コミュニケーション研修: 2/7リスニング編 (高等教育研修センター)
- 7日 (説明会) 新ELMS説明会

- 8日 (研修) 英語コミュニケーション研修：2/8スピーキング編 (高等教育研修センター)
- 8日 (会議) 第2回新渡戸カレッジフェロー・メンター交流・研究会 (振り返り会)
- 10日 (会議) 入学者選抜委員会
- 11日 (行事) 体験型謎解きゲーム×チームワーク「エネルギー危機からの脱出～ミライからの招待状～」
- 12日 (行事) AO入試 (センター試験を課す学部・学科)・国際総合入試最終合格発表
- 14日 (試験) 私費外国人留学生入試第2次選考日
- 14日 (研修) 英文Eメールライティング研修 (初級編) (高等教育研修センター)
- 14日 (研修) 留学生のストレス要因の理解と対応 (高等教育研修センター)
- 15日 (研修) 英文Eメールライティング研修 (中級編) (高等教育研修センター)
- 17日 (研修) ルーブリック評価作成ワークショップ【入門編】(高等教育研修センター)
- 17日 (会議) 第2回新渡戸カレッジ運営会議奨学金支援専門委員会
- 17日 (会議) 第2回新渡戸カレッジ運営会議広報・システム専門委員会
- 17日～21日 (会議) 令和元年度 第3回大学院共通教育委員会 (持ち回り)
- 19日 (研修) 医歯薬保健分野対象ルーブリック評価活用ワークショップ【発展編】(高等教育研修センター)
- 19日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
- 20日 (研修) 大学における障害学生支援について

～支援者ができることとは何か～  
(高等教育研修センター)

- 21日 (会議) 第9回新渡戸カレッジ定例会(学部)
- 21日 (行事) 第32回三省堂サイエンスカフェ「大地の呼吸に耳をすます」
- 25日～26日 (試験) 一般入試 (前期日程)
- 27日 (会議) 第4回新渡戸カレッジ運営会議大学院教育コース教務専門委員会
- 27日 (会議) 第3回総合教育移行専門委員会
- 28日 (会議) 第3回新渡戸カレッジ運営会議学部教育コース教務専門委員会

### ■ 3月

- 3日 (会議) 第3回新渡戸カレッジ運営会議
- 4日 (行事) クラス担任幹事会
- 5日 (会議) 令和元年度第11回高等教育推進機構運営委員会
- 6日 (会議) 入学者選抜委員会
- 7日 (行事) 一般入試 (前期日程)・私費外国人留学生入試合格発表
- 7日 (行事) CoSTEP15期生・修了式
- 12日 (会議) 入学者選抜委員会
- 13日 (会議) 第9回新渡戸カレッジ執行部会
- 18日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
- 18日 (行事) クラス担任等連絡会
- 19日 (会議) 入学者選抜委員会
- 19日 (会議) 第4回総合教育移行専門委員会
- 20日 (行事) 一般入試 (後期日程) 合格発表
- 27日 (会議) 第10回新渡戸カレッジ定例会(学部)
- 下旬 (会議) 第5回総合教育教務・学生専門委員会 (持ち回り)

## 行事予定 SCHEDULE, April-August

### ◆5月

- 7 (木) 履修調整・登録に関するガイダンス  
(オンライン実施)
- 8 (金) ~17 (日)  
第1次Web履修登録期間 (Web入力)
- 8 (金) ~17 (日)  
抽選科目登録期間 (Web入力)
- 11 (月) 第1学期授業開始日
- 19 (火) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 20 (水) ~21 (木)  
第2次Web履修登録期間 (Web入力)
- 28 (木) 履修時間割確認期間

### ◆6月

- 8 (月) 6講時授業実施開始
- 29 (月) ~7/1 (水)  
履修登録科目の取消期間 (Web)

### ◆7月

- 6 (月) ~8 (水)  
自由設計科目登録変更期間
- 10 (金) 6講時授業実施終了
- 11 (土) TOEFL-ITP試験 (英語Ⅱ)
- 23 (木) 祝日の授業実施日 (木曜授業)
- 24 (金) 祝日の授業実施日 (金曜授業)

### ◆8月

- 10 (月) 祝日の授業実施日 (月曜授業)
- 17 (月) 月曜日の授業終了日
- 18 (火) 火曜日の授業終了日
- 19 (水) 水曜日の授業終了日
- 20 (木) 木曜日の授業終了日
- 21 (金) 金曜日の授業終了日
- 22 (土) 初習外国語統一試験日  
(第1学期授業終了日)
- 24 (月) ~9/25 (金)  
夏季休業日





ニュースレター 2020, No.117 目次

大学院教育改革ステーションの設置 ..... 長谷川 晃 1	全学教育科目履修者数対比表 (履修取消後：R2.1.9現在) ..... 15
ラーニングサポート室2019年度活動報告 ..... 3	2019年度学生調査, 卒業生調査および大学院生調査を実施 ..... 17
「日本語教育推進法」の成立と 北海道大学日本語教育のあり方 ..... 5	2020年度夏季休暇における 「全学インターンシップ」の実施に向けて ー今年度は新型コロナウイルスの影響を受け 学生への説明や手続き, 日程の大幅な変更ー ..... 20
全学教育委員会報告 ..... 10	
学務委員会報告 ..... 11	
令和2年度 全学教育部・総合教育部行事予定表 ..... 12	経済同友会と連携した 長期インターンシッププログラムの実施 ..... 21
令和元/平成30年度 (第1学期) 全学教育科目履修者数対比表 (履修取消後：R1.7.11現在) ..... 13	日誌 ..... 22 行事予定 ..... 24
令和元/平成30年度 (第2学期)	目次・編集後記 ..... 25

編集後記

新型コロナウイルス感染症が拡大しています。4月16日に緊急事態宣言の対象が7都府県から全国に広げられたことで、原則在宅勤務となりました。大学の授業はすべてオンラインで実施することとなり、教職員と学生は対応に追われています。一刻も早く状況が改善し、大学が平常の機能を取り戻せることを祈るとともに、自分が感染したり他人を感染させたりすることがないように、極力外出を控えています。一方で、自宅がマンションで家族と近い距離にあり、共働きで子供の世話も交替でしなければならないなど、在宅勤務にはいろいろと制約や課題があることを実感しています。読者の皆さまも、日常生活のさまざまな側面でこれまでに経験したことがない困難な状況に懸命に対処されていることと拝察しますが、くれぐれもご自愛ください。(石と薔薇)

ニュースレター

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)  
通算 第117号

発行日： 2020年5月29日  
発行元： 北海道大学高等教育推進機構  
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
編集委員：◎細川敏幸・鈴木誠・飯田直弘・岩間徳兼  
ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで  
電話 (011)706-7514, FAX (011)706-7521  
インターネットホームページ：  
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.html>

